

独立行政法人国立科学博物館契約監視委員会（平成24年度第2回）議事要旨

1. 日時

平成25年3月27日（水） 10:30～11:15

2. 場所

独立行政法人国立科学博物館 中会議室

3. 出席者

（1）委員

佐野委員長、新井委員、竹内委員、斎藤委員

（2）独立行政法人国立科学博物館

山崎財務課長、三澤専門職員、寺口契約担当係長

南部監査・資産管理担当係長、同服部係員

欠席者

上野次長

4. 議事

（1）平成24年10月～3月期にかかる契約（資料作成時である3月上旬までに締結した案件）の検討

（2）その他

5. 概要

事務局より、平成24年度下半期に契約した案件について資料を基に説明をした。

（主な意見等）

- ・3月31日を納期としている案件があるが、今年は日曜であるし、末日に納品させるというのはいかがか。博物館は開館しているかもしれないが一般的には休業日。3月29日（平日）としている案件もあるし、統一した方がいいのではないか。
 - ・【資料1】の31番のみ、予定価格、契約金額に小数点以下が記載されている（←記載ミス）。
 - ・「自然史系博物館所有の生物多様性情報」に関わるデータ提供の契約で、単価契約と総価契約があるが、記載の仕方については今後統一した方がいいのではないか。また、随意契約の選定理由書について、秘密保持やデータの質の確保等の観点を入れた方がより理由付けを強化できるのではないか。
 - ・競争参加資格で、3年以内や5年以内での実績を要件としているが、これは足りきりや指名入札と見られる可能性がある。この種の業務の場合は何年、などの基準を定めて考え方を作っておいた方がいいのではないか。
 - ・一者応札・応募は合見積が取れないということ。金額の妥当性が確保できないのではないか。一者応札・応募でかつ落札率が100%だと出来レースだと思われる。
- 他の独法の契約監視委員会では、資料を取りに来た者や説明会の参加者数を資料に記載す

るところもある。応札しなかった者に理由についてアンケートを取ることも考えられる。資料を取りにきた者等のデータは取っておいた方がいい。館側が関知することではないが、業者同士で応札する、しないを決める場合もあるので、注意した方がいい。

- ・「国立科学博物館附属自然教育園雪害による倒木等の処理作業」を緊急随契にしなかったのは一般競争をする日程的余裕はあったのか（←来園者に危険を及ぼす状況ではなかったので、一般競争を行う猶予はあった）。

（その他）

- ・事務局から、委員に対し、今年度の出席についての御礼と、来年度についても引き続きお願いしたい旨を述べた。